

約4人に1人が  
がんで死亡

がん検診は、早期発見、適切な治療を行なうことで、がんによる死亡を減らすことを目的としています。

令和3年度、本市の主な死因はがんが最も多く28・1%で、約4人に1人の割合です。がんの中では、肺がん、大腸がんが死因の上位となっています。がんは40〜50代で急激に増え始めます。早期の段階では自覚症状がほとんどなく、発見できる大きさになってから次のステージに進むまでに、わずか1〜2年と言われています。毎年

検診を受けることで、カラダの変化に気づくことができます。

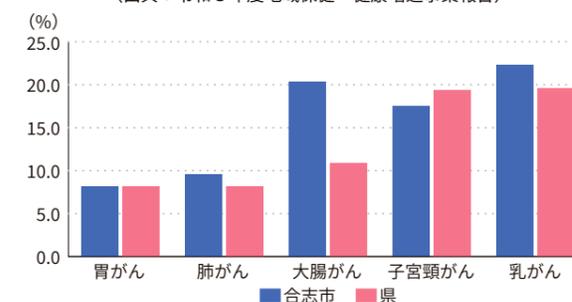
がんを恐れず  
早めに検診を

本市の大腸がんの検診受診率は県平均と比べて高く、関心の高さがうかがえます。しかし、子宮頸がん検診は県平均より低い状況です。

万が一、異常が見つかったも、早期発見で治療にかかる時間や医療費、カラダへの負担を大きく減らすことができ、生存率も高まります。がんを恐れず、早めにがん検診を受けましょう。

令和3年度がん検診受診率

(出典：令和3年度地域保健・健康増進事業報告)



大腸肛門病センター高野病院  
院長、総合健診センター長  
高野 正太先生

年に1回の検診で  
大腸がんにより亡くなる可能性が  
60〜80%減ります。

日本人がかかるがんの1位は大腸がんです。大腸がんは進行するまで、ほとんど自覚症状がありません。しかし、早期発見・早期治療で、ほぼ100%治る病気と言われています。そのためには、便潜血検査(検便)を年に1回受診することが大切です。

国立がん研究センターの調査でも、便潜血検査を年に1回受診することで、大腸がんで亡くなる可能性が60〜80%減ると報告されています。

合志市と高野病院は、「大腸がん死亡者数ゼロ」を目指して取り組んでいます。その結果、受診者数は、年々増えています。

「検診を受けていれば」と後悔するのではなく、「検診を受けていてよかった」と安心できるように、毎年検診を受診しましょう。

## がん検診一覧

対象者には、各種検診(健診)一括申込書を送付しています。内容を確認しお申し込みください。

▶申込期限 5月31日(金)

|                      | 検診名                      | 対象年齢           |    |
|----------------------|--------------------------|----------------|----|
|                      |                          | 令和7年3月31日時点の年齢 |    |
| がん<br>複合検診<br>(集団検診) | 胃がん検診                    | 31歳〜79歳        |    |
|                      | 大腸がん検診                   | 31歳〜           |    |
|                      | 腹部超音波検査                  | 31歳〜           |    |
|                      | 骨粗鬆症検診                   | 40歳〜           |    |
|                      | 子宮頸がん検診                  | 31歳〜           | 女性 |
|                      | 乳がん検診<br>マンモグラフィ・乳房超音波検査 | 40歳〜           |    |
|                      | 乳がん検診<br>乳房超音波<br>オプション  | 31歳〜           |    |
| 個別検診                 | 甲状腺超音波(乳がん検診受診者のみ)       |                |    |
|                      | 胸部レントゲン検査                | 40歳〜           |    |
|                      | 子宮頸がん施設検診*               | 20歳〜           | 女性 |
|                      | 乳がん施設検診                  | 31歳〜           | 女性 |

\*20歳代の受診方法については、別途お知らせします

## 大腸ファイバー検診 (31歳から)

申し込みは、健康ほけん課(☎096-248-1275)に電話か二次元コードからお申し込みください。



▶申込期限 5月10日(金)

## 子宮頸がん・乳がん検診 無料クーポンを8月に送ります

▶対象者  
子宮頸がん検診  
21歳(令和7年3月31日時点)  
乳がん検診  
41歳(令和7年3月31日時点)

## “まさか自分が…” 病気と向き合い分かった 健診・検診の大切さ

タレント・えみりー

明るいキャラクターで親しまれ熊本や福岡のテレビ番組で活躍中のタレント・えみりーさん。  
令和元年、39歳のときに『多発性骨髄腫』を発病したことを公表しました。  
自らの経験から、健診・検診の大切さを訴えています。

― 病気が分かった時はどんな思  
いでしたか

その年の春先に肋骨が折れて、3か月後に病名が分かりました。“まさか自分が…”という思いでした。肋骨が折れたことが信じられず、それが「血液のがん」に繋がるとは思っていませんでした、二重にショックでした。

― 治療は続いているのですか

今も月に1回、抗がん剤治療を受けています。

― 現実を受け入れるには時間が  
かかったと話していましたね

くよくよしているところを見せると子どもたちが心配するので、切り替えるようにしました。子どもたちと楽しんでいたら気分も違いますし、知らないうちに

病気も良くなっているんじゃないかと。改めて家族の存在は大きいと感じました。  
― 今、えみりーさんが伝えた  
ことは

特定健診やがん検診をしっかり受けて欲しいです。私は、40歳になつたら受けようと思っ、市から届く案内もそのままにしないで、きちんと受けていませんでした。早期発見、早期治療で治せる病気もあります。早めに受診して欲しいですし、それが、自分と家族を守ることにあります。

● 特定健診・がん検診に関する  
問い合わせ先  
健康ほけん課  
☎096-248-1275



①②市と市社会福祉協議会が開催した福祉講演会で、病気のことや家族の支えなどを語った  
③市内のイベントで司会



えみりーさん

芦北町出身。結婚をきっかけに合志市に転入し、在住20年。『多発性骨髄腫』の治療を続けながらタレント活動と3人の子育てを両立中。がんなどで闘病する人を支援するインスタグラムのコミュニティ『SUN-ey(サニー)』を運営。